

## カルメン

ビゼー作曲。1875年パリでのオペラ＝コミック座で初演。世界的に人気がある。フランス語で書かれているが、物語の舞台はスペインで、音楽もスペインの民族音楽を取り入れて異国情緒にあふれている。

### あらすじ

#### 第1幕

セビリアの煙草工場でジプシーの女工カルメンは喧嘩騒ぎを起こし牢に送られることになった。しかし護送を命じられた伍長ドン・ホセは、カルメンに誘惑されて彼女を逃がす。パステアの酒場で落ち合おうといい残してカルメンは去る。

#### 第2幕

カルメンの色気に迷ったドン・ホセは、婚約者ミカエラを振り切ってカルメンと会うが、上司との争いのため密輸をするジプシーの群れに身を投じる。しかし、そのときすでにカルメンの心は闘牛士エスカミーリョに移っていた。

#### 第3幕

ジプシーの女たちがカードで占いをしている。カルメンが占いをすると、不吉な占いが出て結末を暗示する。密輸の見張りをするドン・ホセを婚約者ミカエラが説得しに来る。闘牛士エスカミーリョもやってきて、ドン・ホセと決闘になる。

はるばるやってきたミカエラは切ない気持ちを一人独白する。カルメンの心をつなぎとめようとするドン・ホセだが、カルメンの心は完全に離れていた。ミカエラから母の危篤を聞き、ドン・ホセはカルメンに心を残しつつ、盗賊団を去る。

#### 第4幕

闘牛場の入口にエスカミーリョと今はその恋人になっているカルメンが現れる。エスカミーリョが闘牛場に入った後、1人であるカルメンの前にドン・ホセが現れ、復縁を迫る。復縁しなければ殺すと脅すドン・ホセに、カルメンはそれならば殺すがいいと言い放ち、逆上したドン・ホセがカルメンを刺し殺す。

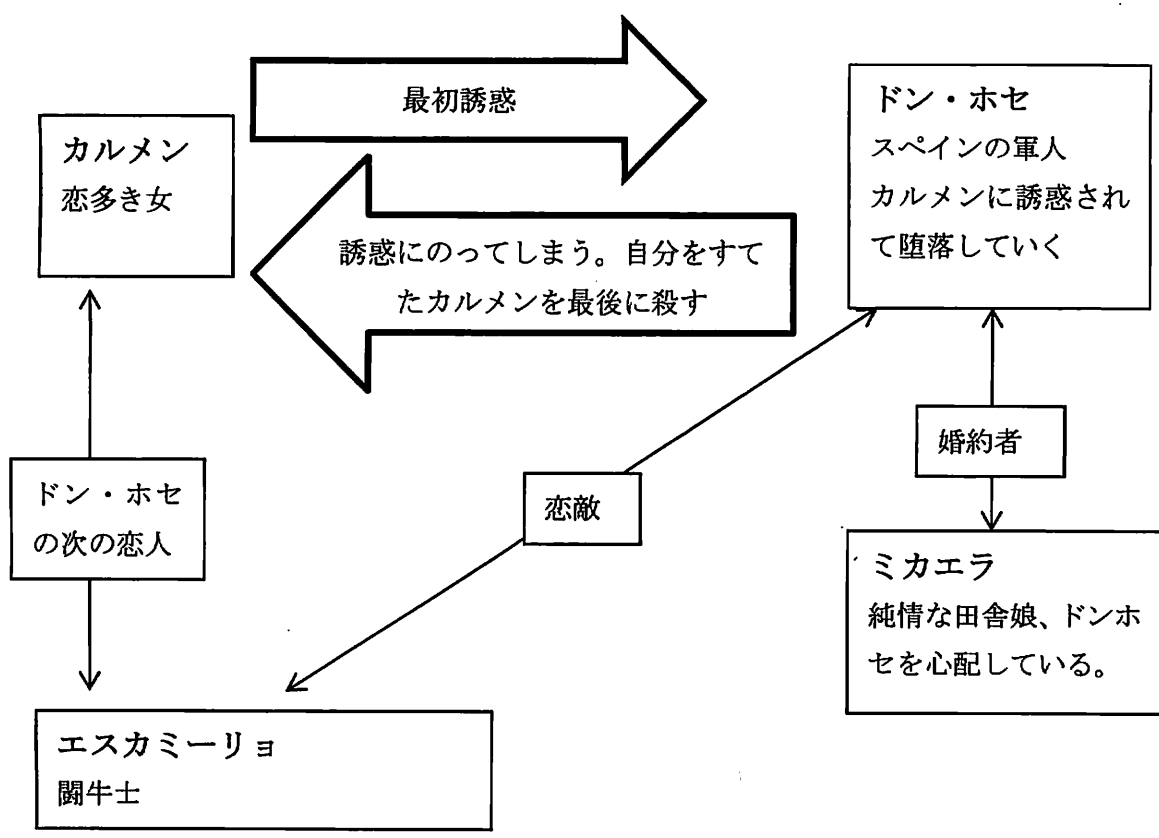
### 登場人物

カルメン（メゾソプラノまたはソプラノ） タバコ工場で働くジプシーの女

ドン・ホセ（テノール） 衛兵の伍長

ミカエラ（ソプラノ） ホセの許婚

エスカミーリョ（バリトン） 闘牛士



舞台芸術研究

後期第1回「カルメン」

CLASS No. NAME \_\_\_\_\_

(1) 「カルメン」の感想を書いてみましょう。

---

---

---

---

---

---

(2) オペラについて簡単に感想を書いてください

(歌のもつ力、舞台・衣装・歌などの芸術の総合性、「歌」と「劇」など)

---

---

---

---

---

---

### <ヘンゼルとグレーテル>

あら筋は皆さんご存じの通りです。

この愛らしいオペラはワーグナーの弟子フンバーディンクにより 1893 年に作曲されました。

当時流行していた殺人もケンカも舞台でおきませんが、ドイツの童謡なども用いながらも、きちんと書かれたこの楽しいオペラはあっという間に世界で上演されるようになりました。(カルメンの初演が 1875 年) 今でも、子供に安心して見せられるオペラとして世界で数多く上演されています。

原作と違う点は、子供が親に森に捨てられるのではなく、ちょっとした行き違いから森にお使いに行き帰れなくなってしまう点、行方不明の子供を父親も母親も探しいき再会してメデタシメデタシという点、かなりキリスト教的な信仰に関する歌詞がある点です。

もちろん気軽に楽しめば良いのですが、「(ホントにアメリカ的なんだが) 魔女の見どころの多い演出」、「いつも神様が見守って・・・とはいっても、結局解決しているのは子供の知恵じゃないか (神様は何をやったのか いや意外に深いメッセージなのか)」「魔女も子供も親もやはり生き物は誰でも〈食〉とは離れられないんだ、という根本にあるメッセージ=だから普遍的な童話」ということなどを考えながらをじっくり見るとより楽しみが加わってくるでしょう。

舞台芸術研究

前期第3回「ヘンゼルとグレーテル」

CLASS No. NAME \_\_\_\_\_

(1) 「ヘンゼルとグレーテル」の感想を書いてみましょう。

---

---

---

---

---

---

(2) 童話や民話の持つメッセージについて自由に書いてみましょう。

---

---

---

---

---

---

「トスカ」

初演 1900年 ローマ

劇の舞台：ローマ市内

劇の中の時：1800年。ナポレオン率いるフランス軍が欧州全土で戦いをしていたころ。

#### 登場人物

トスカ：有名な歌手(S) 最後に自殺する

カヴァラドッシ：画家でトスカの恋人(T) スカルピアの策謀で処刑される

スカルピア男爵：ローマ市の警視総監(Br) 悪役 策謀をはかるがトスカに殺される

アンジェロッティ：前ローマ共和国統領(B) 政治犯、スカルピアに処刑される

スポレッタ：スカルピアの副官(T)

堂守：教会の番人(Br)

#### 第1幕

逃亡した政治犯アンジェロッティは隠れ家を求め、教会にやってくる。カヴァラドッシは同志のアンジェロッティと再会する。トスカはドアの外から二人の話し声を聴き、彼が他の女性と密会していたと疑うが、夜に会う約束をする。

合唱隊入場。彼らはナポレオン軍が敗れたという誤報を信じ、神に感謝するテ・デウムの準備をする。警視総監スカルピアが登場。スカルピアはトスカの不安な心をあおる。スカルピアは祈りに参加しつつ、政治犯（逃亡者）とトスカの二人とも手に入れるのだと歌う。『テ・デウム』

#### 第2幕

カヴァラドッシを拷問にかけるスカルピア。トスカは恋人の苦痛のうめきに堪えきれずにアンジェロッティの隠れ場所をしゃべってしまう。カヴァラドッシは死刑を言い渡され牢屋に連行される。スカルピアは恋人を自由にする代償としてトスカの身体を求める。トスカは絶望し神に助けを求める、アリア「歌に生き、愛に生き」。

トスカはスカルピアを受け入れる代わりに恋人の助命（ニセの処刑）と二人の出国の通行証を求める。トスカはナイフでスカルピアを刺し殺す。

#### 第3幕

カヴァラドッシは処刑を牢屋で待っている。トスカが現れ、驚くカヴァラドッシ。トスカは「見せかけの処刑が行われること、スカルピアを彼女が刺し殺したこと」を話す。

カヴァラドッシが刑場に向かう。兵士たちが一斉に発砲し、カヴァラドッシは倒れる。トスカは『演技』をほめる。しかし処刑は本物だった。スポレッタが兵士と共に駆けつけ、彼女を逮捕しようとするが、彼女は城の屋上から身を投げる。

舞台芸術研究

前期第1回「トスカ」

CLASS No. NAME

(1) 一部の視聴でしたが「トスカ」の感想を書いてみましょう。

---

---

---

---

---

---

(2) オペラについて簡単に感想を書いてください

(歌のもつ力、舞台・衣装・歌などの芸術の総合性、「歌」と「劇」など)

---

---

---

---

---

---

## トゥーランドットについて

### <概要と基礎知識>

イタリアの作曲家プッチーニの最後のオペラ作品。プッチーニは作品を完成させることはできず、死後に弟子がスケッチを元に完成させた。未完というだけでなく、オペラとしての完成度はいま一步の面のある作品ではあるが魅力のある作品ではある。

### <登場人物>★が中心の登場人物

中国の王女	トゥーランドット★
タタール王（今は放浪の身）	ティムール
タタール王の召使い	リュウ★
タタールの王子	カラフ★
トゥーランドットの父 皇帝	アルトゥム
中国の高官の役人	ピン、ボン、パン（道化役）
首切り役人	プーティンパオ、多くの役人、ペルシャの王子、群集や子供たち

### <時と所>

伝説時代の中国 北京

### <あらすじ>

第一幕 「トゥーランドット姫に求婚するものは彼女の3つの間に答えなければならない。答えられない場合は処刑。」と布告を読み上げる。

タタールの王ティムールと奴隸リュウが王子カラフと再会する。トゥーランドットが冷酷な姿であられペルシャの王子は処刑される。

トゥーランドットの美しさに皆が止めるにもかかわらず、カラフは求婚の挑戦のドラをたたく。

第二幕 3人の大臣ピン、パン、ボンがここ数年で多数の敗北者が出たことを憂い、早く国に平和が訪れて欲しいと願う。（結婚式のしたくをしながら処刑の準備もしている。）

皇帝アルトゥムは、カラフに求婚を取り下げるように求める。カラフはこれを拒み、トゥーランドットの3つの間に挑み勝利する

トゥーランドットは負かされたことにうろたえる。カラフは姫に「明日の朝までに私の名前がわかれば、死んでもいい」と言う問を出す。人々は皇帝をたたえる。

第三幕 姫の命令を告げる使者の声が聞こえる。カラフは有名な「誰も寝てはならぬ」の Aria を歌う。<誰も寝てはならない。王女さまも。愛と希望に燃える星を見てごらんなさい。私の秘密は私の胸にある。私のくちづけであなたを私のものにする>



「名前がわからなければ皆死刑」と群集もカラフに名を言えとせまる。そこへ衛兵が（王子の名を知っているはずと）ティムールとリュウの2人をひたててくる。リュウはトゥーランドットに責められるが、「私だけが彼の名前を知っている」アリア<氷のような姫君の心も燃える愛の炎には勝てないでしょう。私は夜明けの前に目を閉じます。勝ち誇るあなたを見ないですむために>を歌い自害する。

トゥーランドットは愛のために秘密を守るリュウの犠牲に愛の尊さを知る。カラフはトゥーランドットに熱いキスを与える。カラフはすべてをトゥーランドットに預け「自分はタタールの王子カラフ」と自らの名を明かす。

朝、皇帝が王座に着く。姫は「若者の名前は<愛>」と叫んで2人は固く抱き合う。群集は王子と姫の幸福を祝い幕となる。

舞台芸術研究

後期第1回「トゥーランドット」

CLASS No. NAME

(1) 一部の視聴でしたが「トゥーランドット」の感想を書きましょう。

---

---

---

---

---

---

(2) オペラについて簡単に感想を書いてください

(歌のもつ力、舞台・衣装・歌などの芸術の総合性、「歌」と「劇」など)

---

---

---

---

---

---